

小-39

酪農大附属動物医療センターにおける札幌夜間動物病院からの集中治療症例の受入状況

○佐野忠士^{1,3)} 川瀬広大^{2,4)} 伊藤暁史^{2,3)} 田中 翔³⁾ 田村 純³⁾ 石川友駿²⁾ 遠藤雄介²⁾ 山下和人^{2,3)}

1) 酪農大獣医保健看護学 2) 酪農大伴侶動物医療学 3) 酪農大附属動物医療センター

4) 札幌夜間動物病院

【はじめに】心肺蘇生に成功した症例を飼い主のもとへ生還させるためには、呼吸機能および循環動態の至適化と脳保護を目的とした心拍動再開後の治療が重要である (Fletcherら、*J Vet Emerg Crit Care*. 22:102-131, 2012)。本学附属動物医療センターでは、2014年5月より札幌夜間動物病院の要請に応じて心拍動再開後の治療またはそれに準じた集中治療が必要となった症例の受入れを開始した。今回、過去2年間の症例の受入れ状況とその概要を報告する。

【材料および方法】2014年5月～2016年6月に犬6例を札幌夜間動物病院より本学附属動物医療センターに搬送し、集中治療を実施した。このうち3例は心原性肺水腫を原因とする心肺停止の心拍動再開後の治療 (PCA-1、PCA-2、PCA-3)、残り3例は咯血を伴う重度心原性肺水腫に対する調節呼吸管理 (CPE-1、CPE-2、CPE-3) を目的に集中治療を実施した。これらの症例では、人工呼吸管理のためにプロポフォールおよびロクロニウムまたはベクロニウムの持続静脈内投与によって不動化し、観血的動脈血圧測定および動脈血血液ガス分析を含む呼吸循環モニタリングを実施して呼吸循環機能の至適化に努めた。症例の集中治療は獣医師1～2名および学生2名程度の診療チームが交代して24時間体制で実施した。

【成績】6例中2例 (33%) が生存退院した。各症例の治療経過は以下の通りである。PCA-1 (ミニチュアダックス、雄、13歳、5.5 kg) : 集中治療35時間で呼吸循環至適化を達成したが、脳死と判断され自発呼吸が再開しなかった。PCA-2 (チワワ、雌、12歳、3.0 kg) : 集中治療27時間で呼吸循環至適化を達成し生存退院した。PCA-3 (チワワ、雌、12歳、3.3 kg) : 集中治療50時間で呼吸循環至適化を達成し生存退院した。CPE-1 : 雑種 (避妊雌、13歳、1.9 kg) であり、呼吸循環至適化は達成されず、集中治療2時間目に死亡した。CPE-2 (シェルティ、避妊雌、15歳、9.9 kg) : 呼吸循環至適化は達成されず、集中治療57時間目に死亡した。CPE-3 (マルチーズ、避妊雌、12歳、3.6 kg) : 呼吸至適化に苦慮し、集中治療137時間目に調節呼吸の離脱を試みたが呼吸困難は改善せず安楽死となった。

【考察】札幌夜間動物病院と本学附属動物医療センターには約17 kmの距離があり車で40～50分間の移動時間を要するが、搬送中に死亡した症例はなく、生存退院率は33%であった。現在、過去6症例の治療成績を基にした管理マニュアル策定など治療成績を高める対策を検討している。